



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎ 36-7117

今月のテーマ ボランティアに支えられ 目指せ日本一のマラソン大会!

1万人を超えるエントリーがあった「第8回 しまだ大井川マラソン in リバティ」は、今年も数々の感動を残して、10月30日(日)に無事終了しました。今月は、本大会の魅力と「市民マラソン日本一」を目指す、市の取り組みについてお伝えします。



コースを疾走するランナー

本大会の最大の特徴は『制限時間 7 時間。途中関門なしで河川敷マラソン専用コースリバティ』を走ること。ベテランは記録を狙い、初心者では完走を目指す絶好のコースとして定評があります。ほかにも、①出店約60ブースの『ふれあい交流イベント』 & 『ステージショー』②長時間走ったランナーの空腹を満たす『大エイドステーション』③市民との交流の場『しまだ乾杯タウン』④富士山静岡空港を利用したランナーに『往復 1 万円の航空運賃補助』⑤フルマラソン完走サポート『しまだ大井川マラソン完走塾』⑥『島田駅前お土産市』など、ランナーと市民の交流を通して島田を全国発信し、地域活性化につながる取り組みを続けてきました。その結果、日本を代表する大会として「全国ランニング大会 100 撰」に7年連続で選ばれています。

こうした取り組みができるのは、2,000人にも及ぶ市民や企業のボランティアが支えてくださるおかげであり、

心から感謝申し上げます。例えば、7時間ぎりぎりまで走り足を引きずりながら着替えの荷物を受け取りに来るランナーに、遠くからゼッケン番号を確認しその人の荷物を持って走り寄る高校生ボランティアの姿。大エイドステーションでは一人ひとりにねぎらいの言葉を掛けながら温かい食べ物は温かく、冷たいものは冷たく提供する心遣い。ぬかるみの中、ひざまずいて靴についている計測チップを外す中学生の姿に心打たれたこともあります。こうした島田市民の「おもてなしの心とその文化」が全国各地から訪れるランナーに高く評価されているのです。



各所でボランティアが活躍

既に、「おもてなし」では日本一の大会と自負していますが、総合力で日本一になるには、シャトルバス・駐車場・トイレ等の更なる整備、完走後も島田市に滞在していただける創意工夫など、毎年、改善を重ねて進化していく姿を参加者に実感していただくことだと考えます。今年からは、ランナーに市内のお寺や公民館等へ民泊していただく取り組みも始めました。引き続き、地域の皆さんと一体となって、全国有数の市民マラソン大会に育ててまいります。

みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などを紹介します。

島田市茶業振興協会は、9月28日から10月2日まで台湾台北市で開催された「アジアパシフィックティエキスポ」へ出展し、島田市のお茶のPRを行いました。

このイベントには、世界17カ国、1,500人以上が参加。日本から唯一出展した当協会のブースでは、エスプレッソマシンで淹れたほうじ茶や、牛乳を混ぜたほうじ茶ラテなどを紹介しました。試飲した人からは「とてもおいしい」「普段はコーヒーを飲んでいるが、このようなお茶なら飲みた

い」などの感想が寄せられ、特に若い女性に好評でした。

今後も、さまざまな場所で島田市のお茶の魅力を紹介していきます。(石川裕司さん：島田市茶業振興協会副会長)

